

「松本理論（自然後天的免役寛容の理論）の実証で、リウマチが治った」

高橋 博 71歳

2004年12月29日

私は、平成10年3月末、65歳で42年間の会社勤めを退き、妻と年1回の海外旅行、年数回の国内旅行を楽しんでいました。

昨年の11月、体力の在る内にと、スペイン、ポルトガル周遊ツアーに参加しました。ツアー出発の数ヶ月前から、歩行時に時々脚が痛くなることがあり、正座も痛くて長時間は困難という状態がありましたが、思い切って出発しました。

関西空港 → 成田空港 → ロンドン空港 → バルセロナ空港 の飛行時間は、約16時間で（エコノミークラスでの長時間飛行は、エコノミー症候群になると云われている程大変苦痛なものです）、成田空港 → ロンドン空港（この間が特に長い）に到着。やれやれと席を立とうとしたら、脚に猛烈な痛みが起こり、痛くて席から立ち上がれませんでした。妻の手を借り、やっと立ったが、脚全体の激痛で、歩行が困難。のろのろ、そろそろ、顔をしかめながら、やっとのことで乗換ターミナルにたどりつく状態になりました。妻の不安そうな心配顔。ツアー仲間の楽しそうな元気な顔と雰囲気。明日から10日間の行程が消化できるのか？ロンドン空港での乗換待合せの1時間30分の間、手持ちバッグの中に入れて来た鎮痛消炎テープを、空港トイレで張り、一生懸命マッサージをしたりしました。少し痛みが薄らぎ、痛い、なんとか歩けるようになったので、バルセロナ迄、約2時間30分の飛行を続け到着しました。到着は、現地時間夜中の12時、1泊目のホテルに入りました。

明日からの観光に備え、ホテルのバスで熱いシャワーを脚にかけ、脚足をよくもみほぐして休みました。翌朝起床時、脚の屈伸が痛いくらいで、たいした痛みもなく、歩行できる状態で、第1日目の行程を消化しました。

第2日目からは、1日目と同じように、我慢すれば何とか歩ける位の痛みなので、妻以外、ツアー仲間、添乗員、ガイドさんには余り迷惑をかけずに、全日程を完全消化し、帰国しました。

帰りは、往きと同じ空路飛行時間でしたが、機内通路側に席を取って、飛行中、時々機内をぐるぐる歩き廻り、激痛に襲われることもなく、何とか帰国しました。

旅の疲れも出、風呂にたっぷりとつかり、熟睡しました。翌朝起床しようとしたところ、脚、足、腕、身体中痛くて、起き上がることが出来なくなりました。やっと身体をまわし、肘を使って立ち上がるような状態になりました。歩行も痛く、階段の昇り降りも、足を上げる時に激痛が走りました。また腕の肘、手首も、

激しく痛み、指も腫れて、曲がりづらくなり、旅行前以上の苦痛状態に陥りました。

平成 15 年 11 月 14 日

近隣の整形外科医院に行き、診療を受けました。「60 歳過ぎてからのリウマチの発症は、ほとんど無い。」「X線撮影でも、関節に、リウマチ症状は見られない。多分、筋肉痛か、突発性の腱鞘炎か、多発性関節炎と思われる。」との診断で、鎮痛剤（飲み薬）、胃薬（飲み薬）、鎮痛（張り薬）を投薬されました。リウマチの検査の為に、採血を行い、服薬をして、様子を見ることとなりました。

平成 15 年 11 月 19 日

整形外科医院へ。前回頂いた薬は、服用すると、痛みはだいぶ薄れるのですが、時間が経つと、痛みは、前より激しくなるようでした。前回採血した血液検査の結果では、リウマチは出ていないので、もうしばらく同じ薬を続けてみることにした。

平成 15 年 11 月 26 日

痛みはますます激しくなってきました。薬服用の直後は、嘘のように痛みが無くなるのですが、短時間で激しい痛さが襲ってくる。

整形外科医院へ。「リウマチ検査は陰性でも、リウマチ症状が出る人がある。その他、膠原病もあるし。市内の総合病院を紹介するので、そちらで診断してくれ。」と、市内総合病院を紹介される。

平成 15 年 11 月 26 日

紹介状を持ち、直ちに市内大総合病院へ。最初、内科で問診、採血、X線撮影、それから整形外科で、足手首のX線撮影。ここでのX線撮影の結果は、「各関節に、リウマチの症状はみられない。」とのこと。今迄と同じ（整形外科と同じ）飲み薬を投薬され、次回、内科の検査結果待ちになった。

痛みは激しくなり、衣服の着脱も困難な状態になってきた。

平成 15 年 12 月 9 日

今年も、あと 3 週間。総合病院へ。

内科の検査結果は、「血液検査も、リウマチは出ていない。レントゲンも、極めてきれい。分からない。今日は、CT検査を受けて帰るように。」と云われ、前回と同じ投薬。

平成 15 年 12 月 15 日

総合病院（内科）へ。「CT検査、良好。確たる痛みの原因は、不明。」（整形外科）「当病院では、これ以上の原因解明は不可能。近くに在る大学病院に、膠原病の権威ある名医がいらっしゃるから、あと 2 週間、今迄通りの薬を服用してみ、痛みが取れないようだったら、12 月 26 日、年末に来院してください。新年早々に診て頂けるよう、その先生に紹介する。」とのことになった。

この期になり、私自身、今迄の通院経過、診断診療経過を冷静に振り返ってみました。激しくなる身体の痛みを、一時的に鎮痛剤で抑えながら、検査、検査で、原因を追究しようとした。だが、その間にどんどん痛みを進行させ、根本原因を明確にできないまま、鎮痛薬で一時的に抑え、その薬が段々強くなっている。痛みを抑える薬が、むしろ病気を悪化させ、遂には一生治らない不治の難病にしてしまうのではないか。

紹介された大学病院に行っても、又検査、検査で、今迄と同じ繰り返しになるのではないか？（私は、権威ある名医とか云う人は、あまり信用できない…特に、大学病院 白い巨塔内と聞いては…）

その時、松本医院、松本先生のお顔と、あのお声が、ハッと私の脳裡に浮かんだのでした。

『絶対、私が治してあげます！』

私と松本先生との出逢いは、以前私が激しい咳き込み、痰、気管のゼイゼイ、胸の痛みの気管支炎に悩まされ、初めて診察を受ける為、松本医院に飛び込んだ時でした。『絶対治してあげます。』と握手をしてくれ、お言葉通り、約 3 ヶ月で、激しい気管支炎をピタッと治して頂いたのです。その後風邪を引いたとき、松本先生の治療をうけたりしていました。

ここ暫くお世話になる事が無かったのですが、前回の風邪か何かで通院した時、『私は、リウマチを治せるようになった。』と仰っていた事も思い出し、私の前は、急にパッと明るくなりました。急激な痛みと、病気に対する精神的な不安で、慌てていて、こんな身近にいる松本先生のことを忘れていたのです。

平成 15 年 12 月 26 日

私はもう、精神的落ち込みから脱却、明るい気持ちで松本医院に通い、脚を引きずって駆け込みました。

松本先生は、私の今迄の話聞き、即『リウマチです。他の病院の検査では、

中々リウマチと診断しません。私の処へ来る患者さんの多くの方が、一時的に痛みを抑える薬で、治すどころか、悪化させてしまっていて来る方です。現在の西洋医学では、リウマチは治せないのです、リウマチを治せるのは、現在、日本中で、いや、世界中で、私一人です。早い内に、当院に気が付いて、今迄色々な治療や薬の服用もしなかったのは、極めてラッキーです。治りも速いと思います。絶対治ります。治してあげます。』と、私の痛い手に固く握手をしてくれました。私も痛さを感じることはなく、「お願いします。」と握り返していました。

そして煎じ薬、入浴剤、織田先生の針と灸の指導を受け、平成15年の師走から、松本医院の治療が始まりました。

年末に、パソコンのHPで、松本理論を熟読し、私なりに理解・納得し、身体は痛いですが、気分は明るい新年を迎えることが出来ました。

平成16年1月7日

(血液検査結果)

- ・ I g G 2223 (基準値 870~1700) ・ I g A 443 (基準値 110~410)
- ・ Z T T 25.2 (基準値 2.0~12.0) ・ C R P 2.3 (基準値 0.3 未満)
- ・  $\gamma$  G 25.2 ・ 血沈 103 (基準値 10)

『血液検査の結果を見ても、バリバリのリウマチですよ。然し、早い内ですから、あまりリバウンドも無く治ると思います。但し、しっかりと、云われた通りの治療を、怠けず努力してやってください。それに、当院以外の薬は絶対に使用しないように。』と云われました。

Z T T—関節周辺に蓄積した異物を排除する抗体の量、高い程リウマチを起す。  
炎症がひどい (正常値 2.0~12.0)

C R P—急性期炎症を起す非特異たんぱく質の一種。異物から生命を防ぐ時上昇する。リウマチがひどくなると上昇し、痛みが軽減すると下降する (正常値 0.3 以下)

血 沈—リウマチの場合、関節組織の破壊が大きくなり、炎症産物の吸収が多くなる為に、血沈値は大きくなる (正常値 10mm)

平成16年1月24日

(血液検査結果)

- ・ I g G 2045 ・ I g A 412
- ・ Z T T 15.0 ・ C R P 2.3
- ・  $\gamma$  G 22.9 ・ 血沈 57

松本医院の治療を始めて1ヶ月。既に効果が現われて来ていました。血沈値は、

前回 103 だったが、半減の 57. 身体の痛みは、本当にずいぶん薄れてきました。

平成 16 年 2 月 21 日

(血液検査結果)

- ・ I g G 1680 ・ I g A 408
- ・ Z T T 10 ・ C R P 0.4
- ・  $\gamma$  G 19.2 ・ 血沈 33

I g G、I g A、Z T T の値は基準値内に入り、順調に改善に向かっているようで、松本理論の実証に、益々信頼が高まって来る。2 月中旬には、娘夫婦と孫 2 人、そして私と家内の 6 人で、岡山方面へ 1 泊の温泉旅行に行つて来ました。痛みは、大変軽減されました。

煎じ薬は、1 日 3 回、食前の他に、食間に 2 番煎じをお茶代わりに飲み、入浴剤の風呂は、朝晩 2 回、入浴時、浴槽での足のマッサージ。指の折り伸ばしは気持ち良く、楽しく入浴出来ます。

#### 松本理論<自然後天的寛容の理論>

- ・ リウマチは、関節に溜まった異物を排除する、人体の正しい免疫の働きであり、この働きを、絶対に抑制したり止めたりしてはいけない。
- ・ リウマチ抗体は、自然にクラススイッチして、アレルギー (I g E 抗体) となり、アトピーが出現して、それを治すことが、リウマチを治すことになる。
- ・ 免疫を高めながら、痛みを軽減して、楽にし、適正な免疫の働きにする。

これが、松本理論の要旨で、松本医院の漢方薬入浴剤、針、灸は、この理論の臨床手段であり、漢方薬がリウマチを治すのではないのです。現在の他の医院の治療は、正しい免疫の働きを抑制したり止めたりしているので、自然に適切なクラススイッチを不可能にし、長時間かけて正しい免疫の働きを弱めたり無くしたりしてしまっている。

平成 16 年 3 月 23 日

(血液検査結果)

- ・ I g G 1517 ・ I g A 301
- ・ Z T T 9.7 ・ C R P 0.1
- ・  $\gamma$  G 18.2 ・ 血沈 20

I g G、I g A、Z T T の値は、基準値に安定して来た。C R P は基準値内に入る。身体の痛みは極めて軽減し、楽になる。起床時に、足、腕、手のツッパリとこわばりの痛みがあるが、日中は我慢出来る痛さになって来ました。

平成 16 年 4 月 22 日

(血液検査結果)

・ Z T T 6.3 ・ C R P 0.1  
・  $\gamma$  G 16.5 ・ 血沈 12

身体の痛みはさらに軽減されましたが、松本理論の展開通り、首の回り、背中、胸、脚の太股に、発疹が現われて来ました。松本先生は、『よしよし、順調!』と喜んでくれました。今回からは、赤い塗り薬が加わりました。

平成 16 年 5 月 27 日

(血液検査結果)

・ Z T T 9.2 ・ C R P 0.14  
・  $\gamma$  G 17.2 ・ 血沈 15

痛みは、順調に軽くなる。発疹（アトピー）は、脚の太股部、首、胸に赤い部分と赤黒い部分とに広がり、痒みが激しくなりました。

平成 16 年 6 月 23 日

(血液検査結果)

・ Z T T 8.6 ・ C R P 0.06  
・  $\gamma$  G 16.0 ・ 血沈 11

アトピーも少しずつ治まり、発疹の広がりも止まり、痒みも少なくなり、色も薄くなって、肌色に近付き始めました。

平成 16 年 7 月 23 日

(血液検査結果)

・ Z T T 8.7 ・ C R P 0.18  
・  $\gamma$  G 15.7 ・ 血沈 11

アトピーも、太股部を残し、首の回り、胸、背中部分は、ほとんど無くなる。

平成 16 年 8 月 21 日

(血液検査結果)

・ Z T T 8.1 ・ C R P 0.05  
・  $\gamma$  G 16.0 ・ 血沈 11

平成 16 年 9 月 28 日

(血液検査結果)

・ Z T T 7.8 ・ C R P 0.09  
・ γ G 16.2 ・ 血沈 11

平成 16 年 11 月 12 日

(血液検査結果)

・ Z T T 6.8 ・ C R P 0.06  
・ γ G 16.8 ・ 血沈 10

遂に、血沈も基準値になる。身体の痛みもほとんど無くなる。ただ、起床時の屈伸に強張りがある。松本先生から、『もう、ほとんど宜しいようだ。』と仰って頂きましたが、私自身、「昨年 12 月 26 日の初診から、丁度 1 年になる今年の 12 月末迄は、治療をして頂きたい。」と、先生にお願いしました。12 月 21 日に採血、年末、先生の診察結果をお願いしたところです。

今、私は、松本博士の「松本理論」に最大の敬意と感謝。それに痛みを和らげる針と、その会話で落込みそうな患者の心を癒してくれた織田先生に、感謝感謝です。

私の場合、他の病院の薬の服用や治療をしないで、早く松本医院の治療に入ったので、このように、短期に「松本理論」が実証されたのです。ですが、松本医院へ来る方の多くが、長い間の時間と経費をかけ、他の病院の治療や薬で、治すはずが悪化させ、治るどころか難病不治になり（難病不治にさせられ）、松本医院の待合室にたどり着くのです。

待合室には、全国各地、遠くから診察に来ている方が多く居られます。然し松本医院の治療を受け、実践すれば必ず治るのですが、松本理論の実践には、根気と努力が必要です。先ず、本人の真面目な努力、そして回りの人の協力が必要です。途中で挫折して止めたり、特にリバウンドの激しい痛みには耐え切れず、他の痛みは一時的に止めるが、病気を悪化させる薬を服用してしまう。これは、本人にとって、松本理論の実証で完治の喜びを識らずに、一生苦痛を背負ってゆくことになる、非常に不幸で残念なことです。

松本先生が、初診の方に非常に厳しいのは、治療法方を良く理解して、信頼し、非常に根気と努力が必要な治療を真面目に実行し、遂には治るという喜びを獲得して貰いたい、その覚悟をしっかりとってもらいたい為なのです。

松本医院で必ず治ります。